

2021 年度事業報告書

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

■2021 年度事業報告

当事業年度における国内経済は昨年度同様に新型コロナウイルスの拡大、感染力の強い変異ウイルス(デルタ株、オミクロン株)の出現等により緊急事態宣言、まん延防止措置が再発令されるなど企業活動や消費活動に大きな影響を及ぼし、感染終息と国内景気は依然不透明な状況が続いている。翻訳・通訳業界においては、翻訳需要は堅調に推移する一方で、引き続き顧客からの品質・価格・納期への要求の高まり、業界内での競争激化、機械翻訳の利活用の進展など、翻訳・通訳業界を取り巻く環境は一段と大きく変化してきている。

このような環境の中で、日本翻訳連盟は創立 40 周年という節目の年を迎えることができました。改めて、当連盟が翻訳・通訳業界の中核的役割を果たす組織であることを自覚し、関連諸団体との提携、協力関係を強化しながら、引き続き翻訳・通訳業界の認知度を高め、社会的な地位向上と持続可能な発展と健全化に努めた。また、会員のための業界団体として、JTF 公式 Web サイト、JTF ジャーナル Web 版を活用した情報発信など、より一層の会員サービスの向上を図るため、以下の 5 項目を重点施策として推進した。

- (1) セミナー開催方法のオンライン化による会員サービスの拡充と入会促進
- (2) 委員会体制の強化と Web サイトのリニューアルによる事務局業務の効率化
- (3) ほんやく検定に関する組織強化と実施方法に関する検討
- (4) 機械翻訳・支援ツール・用語バンク等に関する調査・研究
- (5) 国内外関連団体との提携・協力関係の強化

以上の活動を通じて当連盟の各事業内容を拡充させ、一定の成果を挙げることができた。

入会促進策として実施の個人会員の年会費の改訂の周知、その他の様々な場面における入会勧誘活動により会員数は前年比 49 件 (6.8%) 増と大きく伸ばすことができた。

事業活動収入については、「翻訳の日」記念行事を意識した創立 40 周年記念第 30 回 JTF 翻訳祭を 2 週間連続開催とし、イベント、オンライン開催、見逃し配信等の実施、翻訳セミナーについては原則、毎月開催とし、4 月の第一回には 40 周年特別記念として機械翻訳に関連するセミナーを開催し、収益確保に努めた。その結果、参加者数は前年度を上回る 1,182 名となり、大盛況のうちに終了した。次年度の第 31 回 JTF 翻訳祭もオンライン開催に決定し、実行委員会で企画が進行中である。

ほんやく検定については受験者総数が 986 名であり、前年度比で 16.1%ダウンとなった。長引くコロナ感染予防対策で国内経済の冷え込みがある程度関係しているのではないかと推測する。

■1. 翻訳事業に関する調査及び研究(定款第4条第1号関係)

①業界調査委員会

翻訳業界の調査

【実施実績】

2021年4月に2020年度翻訳通訳白書を発行した。それに伴い、6月の社員総会にてオンライン基調講演として業界調査報告を、法人・個人と分けて実施した。

また、事業計画にあった以下の項目についても、計画通り実施した。

- (1) AmazonにてPOD(プリント・オン・デマンド)サービスによる販売
- (2) JTF 会員・非会員・過去の購入者へメールマガジンによる告知活動
- (3) JTF ホームページおよびJTF 公式 SNS(Twitter, Facebook)を利用した広報活動
- (4) 関連団体の協力による広報活動

【評価】

2020年度翻訳通訳白書を計画通り発行するとともに、事業計画にある販売促進活動も計画通り実施した。

6月の社員総会で実施したオンライン業界調査報告では、会員・非会員を含め300名の方々に参加いただいた。

【担当】

翻訳業界調査委員会

委員長: 齊藤貴昭(JTF 理事)

委員: 二宮俊一郎(JTF 理事)、筆谷信昭(日本映像翻訳アカデミー株式会社)、古谷祐一(JTF 理事)、室田陽子(JTF 理事)

②翻訳品質委員会

【実施実績】

コロナ禍の状況で、委員会として具体的な活動はほぼ何もできなかったという状況だった。ただ、その状況のなかで以下の活動は行った。

・2021年12月、1月にそれぞれ、スタイルガイドに関する問い合わせがあり、委員長・高橋がそれに対応した。

・セミナーなどを実施できていない状況ではあるが、このような形で問い合わせがあったのは、「JTF 日本語スタイルガイド」の知名度と定着度はだいぶ上がってきた証といえる。事務局とも協議のうえ、今後もこのような問い合わせに対しては、委員会として積極的に対応していくことを、改めて確認した。

【評価】

2021 年度の事業計画では以下のような活動を計画していた。

A) 公開資料の維持管理および活用

こちらについて、特に活動は行えなかったものの、上記のような外部対応も含めて一定度の「活用」は果たせたと考える。

B) ほんやく検定との連携

委員長・高橋が 2021 年度も引き続き、ほんやく検定委員会にも参加。ただし、ほんやく検定委員会の活動も、2021 年度のあいだは作問・採点協力者への対応、機械翻訳に関する扱いなどに終始したため、こちらの成果は特にない。

【担当】

翻訳品質委員会

委員長：高橋聡(JTF 副会長)

副委員長：東尚子(個人翻訳者)

委員：駒宮俊友(個人翻訳者)、田畠奈々(株式会社翻訳センター)、西野竜太郎(JTF 理事)、舟津由美子(個人翻訳者)

③用語バンク委員会

【実施実績】

前年度の評価でも指摘したように、コロナ禍による活動の制約により「用語バンク」構想の周知と実現のために業界関係者、関係機関への支援の働きかけの一助となる資料を JTF 公式 Web サイトに「用語バンク実現に向けた検討と課題」を掲載、公開した。

https://www.jtf.jp/pdf/Ybank_202103.pdf

【評価】

Web にて公開した「用語バンク実現に向けた検討と課題」で提言した内容、趣旨は以下の通りである。産業界が用語集の重要性を正しく理解する必要がある。その上で、多種多様な用語集の粗データを供与し、業界の枠組みを超えて対訳用語集をムダ・ムラ・ムリなく構築する必要がある。理解を深めてもらうための具体的な活動として、セミナーでの講演や、ジャーナルまたは Web サイトなどでの情報発信を検討する。また、業種・業界を超え、海外の事例に負けないレベルの運用に引き上げるために、産・官・学の連携した活動としてステップアップできるよう、関係機関への働きかけをする必要がある。

しかしながら、コロナ禍の影響による制約もあり、直接的な関係機関への働きかけの活動が思うように進展しなかった。アフターコロナを意識し、産業界のあらゆる関係者に理解を深めてもらいつつ、関係各所に働きかけをしやすい形を今後も継続して模索してゆく必要がある。

【担当】

用語バンク委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)

副委員長:森口功造(JTF 専務理事)

委員:隅田英一郎(JTF 理事)、高橋聡(JTF 副会長)

■2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催(定款第4条第2号関係)

①翻訳セミナー企画運営委員会

【実施実績】

JTF 翻訳セミナーの開催

回数	日時	テーマ	JTF 会員	翻訳 学校	非 会員	学生	合計
1	5月 28日	冠詞を正しく使うためのマインドセット 遠田和子(日英翻訳者)	99	47	142	1	289
2	7月 13日	日本における出版翻訳の現状 山本知子(株式会社リベル 代表取締役)	47	6	46	1	100
3	9月 9日	コミュニケーションの視点から医療通訳 を考える 渡部富栄(大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科 講師 会議通訳者)	38	1	11	1	51
4	12月 7日	新聞校閲記者の仕事 ミスを見逃さない技術 田村 剛(毎日新聞社 校閲センター(東京)副部長)	107	0	64	1	172
合計人数			291	54	263	4	612
1回あたりの平均人数			73	14	66	1	153

【評価】

今年度も全て“オンライン”で、全4回のセミナーを開催した。各テーマとも参加者にとって、非常に関心の高いテーマを取り上げたため、多くの参加者を集めることができた。

第3回目には、通訳分野を扱った。「コミュニケーションの視点から医療通訳を考える」と題して、大東文化大学の講師であり、会議通訳者でもある渡部富栄先生に講演いただいた。

なお、今年度の参加者の特色として、関心の高い分野のテーマについては、非会員の参加割合が高く、会員価格に比べて、割高にもかかわらず、多くの集客ができた(上記表中、第1回、第4回参照)。

来年度以降の参考にしたい。

【担当】

翻訳セミナー委員会

委員長:村下義男(JTF 理事)

委員:井口富美子(JTF 理事)、佐藤直樹(JTF 個人会員)

②翻訳祭実行委員会

【実施実績】

第30回 JTF 翻訳祭 2021 は、当初“リアルとオンライン”との併用を検討し、計画したが、まだまだコロナ禍でもあることを考慮し、年明けの理事会において、前回の開催に引き続き“オンライン”形式のみでの開催を決定し、粛々と準備をすすめた。結果、2週間の開催を大好評のうちに終了することができ、昨年度の参加人数を上回る1,182名の参加者数となった。

なお、開催期間は2021年10月6日(水)～10月20日(水)、再放送期間11月24日(水)まで実施した。

【評価】

オンライン形式でのイベントは、前回に続き2回目でもあり、大きなトラブルもなく成功裡に終了した。

今回は、JTF 創立40周年という節目の年でもあり、9月30日の“翻訳の日”に因んで、記念のイベントをオンラインで開催し、10月6日からの第30回 JTF 翻訳祭 2021 に誘導することができた。

2回目の開催でもあり、オンラインでの経験をさらに積むことができ、スムーズな運営ができたことは大変喜ばしいことではあるが、リアルでの交流会の大切さも改めて再確認することもできた。

【担当】

大会組織委員会

委員長:石岡映子(JTF 常務理事)、副委員長:安達久博(JTF 会長)、委員:森口功造(JTF 専務理事)、石川弘美(JTF 理事)、村下義男(JTF 理事)

実行委員会

実行本部

委員長:村下義男(JTF 理事)、副委員長:二宮俊一郎(JTF 理事)、副委員長補佐:敦卷千里(株式会社翻訳センター)、広報委員長:石川弘美(JTF 理事)、プログラム委員長:松元洋一(JTF 理事)、運営担当:山畑征四郎(株式会社インターグループ)、財務担当:平野幸治(株式会社メディア総合研究所)

実行委員

広報担当:松本佳月(個人翻訳者)、マハウオンウィリヤ スタシニー(株式会社アミット)

プログラム委員:安藤惣吉(JTF 常務理事)、安藤文彦(アイ・ディー・エー株式会社)、石川秀明

(ヤマハ株式会社)、岩下雅寛(凸版印刷株式会社)、塩崎理恵(株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ)、高橋聡(JTF 副会長)、寺西澄恵(アイ・ディー・エー株式会社)、成田崇宏(株式会社ホンヤク社)、舟津由美子(個人翻訳者)、古河師武(株式会社インターブックス)、松浦悦子(個人翻訳者)、宮本伸也(JTF 監事)、李東偉(JTF 理事)
 アドバイザー: 齊藤貴昭(JTF 理事)、中野真紀(個人翻訳者)

③関西委員会

JTF 関西セミナーの開催

回数	日時	テーマ	JTF 会員	翻訳 学校	非 会員	学生	合計
1	4月 27日	【JTF40周年特別企画】機械翻訳とは何か？どこから来て、どこへいくのか？ 中澤敏明(東京大学大学院情報理工学系研究科 客員研究員) 高橋聡(個人翻訳者、JTF 副会長)	149	1	55	1	206
2	8月 18日	エンタメ翻訳、わが人生 田口俊樹(翻訳家)	33	0	26	1	60
3	2月 17日	翻訳(者)のでしゃばり方について 山形浩生(翻訳家)	27	0	28	2	57
4	3月 2日	森口理恵の実践医薬翻訳セミナー 森口理恵(R&A メディカル代表)	54	15	37	1	107
合計人数			263	16	146	5	430
1回あたりの平均人数			66	4	37	1	108

【評価】

JTF40周年特別企画として、AAMT後援のもと、JTF副会長でもある高橋氏に、機械翻訳に関する自らの翻訳本のコンセプトに合わせ、解説を書かれた中澤先生と一緒にご登壇いただいた。歴史、翻訳者の視点、技術など、内容は多岐にわたったが、幅広い参加者を集め、機械翻訳の理解と浸透に役立ったと確信している。その他、出版翻訳の第一人者のお二人にもご講演いただき、翻訳の技術、心について考える機会をいただいた。最後、医薬翻訳の第一人者である森口さんの講義は、翻訳の仕方だけでなく、翻訳者の心得など、翻訳という仕事について再認識する、今期最後を締めくくるに値する素晴らしい内容だった。リアルな懇親会は最後まで実現できず、会員との交流が図れなかったのは残念である。収支的にも貢献できた。

【担当】

関西委員会

委員長: 石岡映子(JTF 常務理事)

委員: 安達久博(JTF 会長)、安藤惣吉(JTF 常務理事)、寺西澄恵(アイ・ディー・エー株式会社)

■3. 翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施(定款第4条第3号関係)

①「JTF<ほんやく検定>」の実施

【実施実績】

第75回を2021年7月、第76回を2022年1月に以下の通り実施した。

・第75回:2021年7月31日(土)受験者数554名

・第76回:2022年1月22日(土)受験者数432名 合計986名(前年度1,175名)

受験方法:インターネット受験

科目:(基礎レベル)5級/4級 (実用レベル)英日翻訳/日英翻訳

実用レベル選択分野:(1)政経・社会、(2)科学技術、(3)金融・証券、(4)医学・薬学、(5)情報処理

第30回 JTF 翻訳祭 2021[登壇日:2021年10月7日]に登壇し、画面を介して直接視聴者に JTF ほんやく検定の実施内容と特典を紹介した。また、NIPTA との特許分野の共同運営を順調に行うために NIPTA 試験員会に積極的に参加し NIPTA と検定運営についての意見交換の場を積極的に持った。さらに、JTF も NIPTA 開催の知的財産翻訳検定を広報面で支援した。

【評価】

受験者総数は986名であり、前年度比で16.1%ダウンとなった。事業計画で予定していた1,000名に対しては14%ダウンとなった。2020年4月7日に最初の緊急事態宣言が発令されてから、一時的にはあるが第73回の時に受験者の増加があったが、それ以後、第75回、第76回が減少傾向になってきている。第75回と第76回の受験者数を比較すると、第76回で22%ほどダウンとなった。この原因を明確にするのは難しいと思いますが、長引くコロナ感染予防対策で日本の経済の冷え込みがある程度関りがあるのではないかと推測する。JTF 公式 Web サイト「検定合格者リスト」(JTF 会員専用)及び JTF 機関誌(JTF Journal Web 版)に第74回、第75回の1・2級合格者プロフィールを掲載し、JTF 加盟翻訳会社と合格者の仕事マッチングに寄与した。

【担当】

ほんやく検定委員会

委員長:安藤惣吉(JTF 常務理事)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、原田真(JTF 理事)

オブザーバー:室田陽子(JTF 理事)

②「JTF<ほんやく検定>」問題・解説集の刊行

【刊行実績】

過去問題・解説集の刊行

「JTF ほんやく検定」各回につき実用レベルの全分野・全科目と基礎レベルの問題・訳例・解説で構成される過去問題・解説集を以下の通り刊行した。販売部数は約1,302部(前年度1,375部)と

なっている。

第 74 回:2021 年 6 月刊行／第 75 回:2021 年 12 月刊行

【評価】

問題・解説集については、毎回受験者及び購入希望者からの問合せが数多く寄せられている。受験前の傾向と対策及び受験者の復習ツールとして、翻訳力向上のための有益な媒体となっている。

【担当】

ほんやく検定委員会

委員長:安藤惣吉(JTF 常務理事)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、原田真(JTF 理事)

オブザーバー:室田陽子(JTF 理事)

■4. 翻訳事業に関する情報の収集及び提供(定款第 4 条第 4 号関係)

①組織実行委員会

○組織強化の推進

【実績】

法人会員、個人会員にも関心の高い 2023 年 10 月に施行される「インボイス制度」についての説明会を財務省担当官に講師をお願いし開催した。

【評価】

説明会は概ね好評であった。今後も引き続き「インボイス制度」に関する周知と同時に、会員への情報提供を継続して実施してゆく必要があると考える。

【担当】

組織委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、森口功造(JTF 専務理事)、安藤惣吉(JTF 常務理事)、石岡映子(JTF 常務理事)

○翻訳・通訳事業の ISO 規格化に向けた取り組み

【実績】

翻訳部会では、翻訳品質の評価に関するガイドライン規格として以前は ISO 21999 で検討されていた内容が一旦廃案となり、ISO 5060 (Translation services - Evaluation of translation output -

General Guidance) として再検討されている。現時点で CD 投票まで進んでいる。

通訳部会では ISO23155(会議通訳)と ISO24019(遠隔同時通訳プラットフォーム)について今年度内に IS 発行を予定していたが、2021 年 12 月の時点で、ISO23155 は IS 発行となったが、ISO24019 については、中身の最終確認のため FDIS 一步手前までの段階で止まっている状態が続いている。

これまで、両会議ともに ZOOM 形式での会議が開催されている。

【評価】

コロナ禍の影響で、国際総会が発生せず、次年度も開催されないことが決定している。引き続き ZOOM 形式で会合は開催される見込みである。翻訳部会では、前述した NP5060 の CD が DIS のステージに移行する見込みとなっており、通訳部会では、残りの ISO24019 の発行に向けて、最終段階となっているため、国内 WG と調整しながら、IS 発行に向けて務めてゆく。

【担当】

組織委員会部会 ISO 規格検討会

部会長: 森口功造 (JTF 専務理事)

部会委員: 田嶋奈々 (株式会社翻訳センター)、村下義男 (JTF 理事)

○通訳事業に関する講演会等の開催及び調査研究

【実績】

全 4 回のうち、第 3 回目に、医療通訳分野を扱った。「コミュニケーションの視点から医療通訳を考える」と題して、大東文化大学の講師であり、会議通訳者でもある渡辺富栄先生に講演いただいた。

フリー通訳者や社内通訳者を中心に、50 名程度参加していただいた。セミナーでは、医療通訳のポイントレッスンから、後半戦は参加者との Q&A を中心に、積極的な双方向のセミナーとなった。

【評価】

医療通訳という分野のため、エージェント(通訳会社)と通訳者、医療機関との連携がビジネスベースで成立していない現状のため、医療通訳という分野は確かに存在するが、現状はまだボランティアベースとなっている。よって、ビジネスとして成立させるためには、行政を含めた仕組化が必要であることもよく理解できました。

今後とも医療通訳や司法通訳といった分野で、第一戦で活躍される通訳者を招いて、セミナーを開催していきたい。

【担当】

組織委員会部会 通訳部会
部長:村下義男(JTF 理事)

②トラブル防止委員会

前年度は、連盟会員が各種トラブルに見舞われた際に、解決をはかる専門家をすぐに探せるように、2021年7月に「各種トラブルに関する相談窓口のご案内」をJTFのサイト上にアップした。

https://www.jtf.jp/pdf/JTF_soudanmadoguchi.pdf

また、2021年12月に行われた財務省主税局による会員向けのインボイス制度説明会において、不適切な発言があると個人翻訳者から指摘を受け、SNS上で批判が殺到したが、連盟として主税局の担当者よりお詫びの言葉を頂き、事態を収拾することが出来た。

2022年3月には「自殺ほう助」に関する内容の翻訳依頼が個人会員翻訳者にあり、その内容から緊急性があると判断し、トラブル防止委員会として至急文書を作成し、JTFのサイト上およびメールにて注意喚起を促した。

JTFWEBサイトの「翻訳基本契約のひな形」が数十年前に作成されたもので、内容的に更新する必要があるため、現在、その改訂版作成に着手中。

【評価】

インボイス制度説明会の不適切な発言については、素早い対応と説得によりで大事に至らずに済んだ。インボイス制度に関しては、個人翻訳者を多く抱えるJTFにとって重要な事柄であるので、翻訳者・通訳者にとってわかりやすい納得できる説明で理解を求める活動をしていかなければならない。

【担当】

トラブル防止委員会
委員長:松元洋一(JTF 理事)

③広報委員会

【実施実績】

JTF ウェブサイトの企画・運営

2020年にリニューアル公開したWEBサイトは、業務システムと連動しているため、適宜、改善が必要な箇所の修正を進めた。

40周年を迎え、JTFが健全な団体であることを内外に示すため、暴力団等反社会的勢力排除宣言、社会責任に関する基本方針を策定してサイト上に公開した。

JTF Web ジャーナルの編集発行

印刷物として作成してきた JTF ジャーナルを 2020 年 12 月で終了とし、2021 年 1 月からは業界動向の情報をいち早くお届けできるよう、WEB 版のジャーナルへの移行をおこない、海外の動向を含めて毎週の業界ニュースや、イベント報告、特集の連載などを配信している。また、広告出稿企業にはニュースリリース掲載の特典を付け、出稿企業を集めた。2021 年 1 月より編集長だった西野氏が業務上の都合で退任されたため、松元洋一氏を新編集長とし、編集委員会の新体制を作った。

広報ツールの作成

JTF の活動や、会員のメリットを紹介できるパンフレットを作成した。JTF 会員になっていない翻訳会社宛に 9 月 30 日の無料イベントの案内とともに送付した。

JTF 創立 40 周年/第 30 回 JTF 翻訳祭 2021

JTF40 周年にあたり、専用のロゴ、イメージ画像、Zoom 背景などを作成し、1 年を通してのイベントが 40 周年関連イベントと位置づけ、共通して使用した。

また関連雑誌に広告を出稿した。9 月 30 日には、翻訳の日、JTF 翻訳祭の 30 回記念とともに 40 周年記念として無料イベントを開催した。

JTF 翻訳祭での広報活動

第 30 回 JTF 翻訳祭にて広報活動を行った。

イベントの統一感を持たせるため、イベントロゴを作成し、イベントを通じて使用し、発表者の使用する背景画像、PowerPoint のテンプレートを作成して配布した。また、オープニング動画の作成および、各セッションのインタビューを行い、セッション紹介動画を作成した。

【評価】

ウェブサイトは、業務システムとして運用する上で必要な微調整を引き続きおこない、より使いやすいサイトになるよう修正を進めることができた。

新体制では、読者アンケートを実行し、密な編集会議を行い、さらに読者に価値のある情報をお届けできる体制をつくることができた。

JTF 創立 40 周年、第 30 回 JTF 翻訳祭という記念すべき年度についての広報は、新型コロナウイルス感染症の影響で制約の多い中だったが、可能な限りおおむね行うことができた。

【担当】広報委員会

委員長: 石川弘美 (JTF 理事)

委員: 西野竜太郎 (JTF 理事)、松元洋一 (JTF 理事)

■5. 翻訳事業に関する内外関連機関との連絡及び協調(定款第4条第5号関係)

【実績】

コロナ禍の制約により今年度も JTF 翻訳祭、セミナー開催がオンライン形式となったが、連盟創立 40 周年という節目の年を意識した企画が多く、創立 30 周年の AAMT をはじめ、NIPTA、JAT などの関連諸団体の協力により、講演者、宣伝等での連絡および協調が円滑に進み、一段と関係強化につながった。

【評価】

- ・関連団体との関係も深耕しており、各イベントにおける集客も拡大している。
- ・海外のイベントもオンライン開催が普及してきており、引き続き GALA 等とのパートナープログラムによる今後の展開が期待できる。

【担当】

組織委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)

委員:高橋聡(JTF 副会長)、森口功造(JTF 専務理事)、安藤惣吉(JTF 常務理事)、石岡映子(JTF 常務理事)

■6. 情報セキュリティに関する取組(定款第4条第9号関係)

【実績】

引き続き事務局員のテレワークを実施し、セキュアな環境での事務局業務ならびに委員会活動、イベント運営等の円滑化に努めた。

【評価】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大がデルタ株からより感染力の強いオミクロン株への移行もあり、コロナ禍における事務局員の感染防止策としてテレワークの継続実施を今後も継続してゆく予定である。

【担当】

組織委員会

委員長:安達久博(JTF 会長)

委員:各委員会委員長、JTF 事務局

会員数(2022年3月31日現在)

	期首	期末
正会員 法人会員	207	204
正会員 個人会員	508	561
賛助会員	5	4
合計	720	769